

## 第1章 プランの目的と視点

### 1 目的

今、畜産業には多くの期待と課題があります。

日本においては、輸入農畜産物の増加、相次ぐ食品の安全・安心をめぐる事件の発生、さらには世界的な人獣共通感染症<sup>2</sup>の発生を受け、家畜の適正な飼養等による安全な生産と、情報提供等による安心な畜産物の供給が重要です。さらに、消費者の多様なニーズに対応した、個性的で品質の良いブランド畜産物も同時に求められています。

また、世界的な環境問題が指摘される中、畜産業においても環境負荷の軽減のみならず、良好な都市環境創出への積極的な貢献が求められます。

一方、家畜や緑に触れる機会の少ない一般の多くの消費者に対し、畜産業を理解してもらうことも重要です。

このような中、東京都は大消費地の消費者への個性的な畜産物の提供と、子どもたちと畜産とのふれあいによる食育の推進を柱とし、良好な都市環境の創出に貢献する魅力ある畜産業を育てていきます。

### 目 標

都市のメリットを活かし、小規模な畜産農家でも経営継続が容易な畜産物の加工・販売やブランド化の推進と、家畜排せつ物のたい肥化<sup>※3</sup>などにより、循環型社会<sup>※4</sup>の構築に貢献します。

畜産物の生産段階での安全・安心の確保を図ります。

都民が家畜とふれあえる場を確保し食育を進め、いのちの大切さを理解するとともに、食べ物に感謝し、大切に作る心を育みます。

**このプランは、畜産振興の基本プランとしておおむね五年後を目標として策定しました。**

## 2 取組の視点

東京の畜産業は、都市化の進展という立地上の困難性がある一方、市場や加工施設に近く、日本一の大消費地を抱えているという利点を活かして、優良な畜産物を都民に供給することで、都民の豊かな食生活に貢献しています。

最近では、家畜とのふれあいを通じた食育の機会の提供、たい肥供給による持続可能な農業<sup>※5</sup>の推進など、都民の暮らしや心の豊かさに貢献できる畜産業の多面的機能が見直されてきています。

本プランは、「多様な都民のニーズを反映させやすい」という都市畜産のメリットを活かす視点で、個性的な畜産経営や安全・安心、さらに、家畜とのふれあいを通じた食育を推進していきます。

### 環境への貢献と畜産物のブランド力の強化

- 循環型社会の構築のために、家畜排せつ物や食品残さ等の有効利用や、生産物の輸送距離が短いこと等を活かした環境負荷の低減等を目指します。
- 都民の求める、東京ならではの、ブランド畜産物の開発・普及を進めます。

### 安全・安心の確保

- 安全・安心の確保のため、残留農薬チェック<sup>※6</sup>による飼料原料の安全性確保や、家畜を快適な環境で飼養するなど、生産者のこだわりを通じて安全で良質な食材を都民に届ける方策を検討します。
- 消費者の食品の安全性についての関心が高まっている中、食卓と生産現場との距離が近いメリットを活かし、生産者と消費者との積極的な情報交換により、リスクコミュニケーション<sup>※7</sup>を図っていきます。

### ふれあい・食育の推進

- 食育の推進のために、生産者が都民と積極的に関わる機会を増やし、生産段階からの理解を深めることを進めます。
- 都民は、家畜とのふれあい体験を通じて、自然の恩恵やいのちの大切さに対する理解を深めることができます。